

団体名

(社福)大阪社会医療センター

所管局名

福祉局

1. 団体の概要

・あいりん地域並びに周辺の居住者及び生計困難者に対し、多様な医療・福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援するため、昭和45年に本市が設立した団体である。

・本市は、団体に対して、無料低額診療事業(第二種社会福祉事業)や医療・福祉に関する相談及び支援等を行う付属病院の事業費や、建替費用の一部補助に加えて、職員を派遣している。

2. 所管局(本市)が当該団体に求めている役割は「具体的」に何なのか。

・あいりん地域の社会医学的な実態を把握するとともに、必要かつ迅速な医療を行い、地域住民の保健と福祉の増進に寄与することを目的に、無料低額診療事業(第二種社会福祉事業)、医療・福祉に関する相談及び支援等を実施すること。

3. それは、本当に外郭団体でなければ施策目的を達成することができないのか。

具体的には、

- ①本当に現在もその役割を担うことができる民間が存在しないのか(民間の主体にゆだねた場合には必ずしも実施されないおそれがあるとまでいえるのか)
- ②契約や協定といった予算執行に係る監理以上に、求める役割があるのか(補助事業の管理に加えて職員を派遣し外郭団体として監理する必要性をどう考えるべきか)

・あいりん地域は、高度経済成長期から日本最大の日雇労働者が集まる地域で、様々な事情から野宿生活を余儀なくされた方や、不安定就労による疾病や負傷、劣悪な生活環境により、治療が必要でも社会的・経済的理由から必要な医療が受けられない方が多く存在する。

・こうした方へ必要な医療を提供することは、突出した罹患率の高さとなっている結核の蔓延を防ぐためにも、必要不可欠である。

・また、複雑な個人事情を抱える方も多いことから、行政機関を忌避する傾向が強く、過去には大規模な抗議行動が繰り返し発生するなど、日雇労働者や地域の住民に丁寧な対応が求められることも、特徴的な地域である。

・日雇労働者が減少した現在においても、このようなあいりん地域の特性は根本的には変わっておらず、日雇労働者が集中する状況は、今後も見込まれるところである。

・こうした特性を有するあいりん地域において、上記の役割を担う民間事業者は存在しておらず、かつ、あいりん地域での診療経験のない民間事業者等の新規参入が見込めるものではない。

・また、あいりん地域においては、他の地域にも増して医師の確保が困難な状態であるが、本市が関与する外郭団体であることによって、大阪市立大学との医師派遣協定を継続し、診療体制を安定的に確保できている。

・加えて、医療の提供にあたっては、あいりん地域に関する豊富な知識や経験を踏まえて受診者に接する必要があるが、当団体は、昭和45年から地域で医療を提供するなかで、地域の特性を理解して良好な関係を構築するとともに必要なノウハウを蓄積しているからこそ実施できるものであり、このようなことから、同様の役割を担うことができる民間事業者は他に存在しない。

・本市が設立した団体として初期の目的を達するため、職員を派遣することにより、本市の方針に沿って、必要な事業からの撤退を防ぎ、事業を安定的に継続できるものと考えている。

団体名	(社福)大阪社会医療センター	所管局名	福祉局
-----	----------------	------	-----

市が法人に求める役割

○ 無料低額診療施設の経営等

- ・民間部門に安定的に委ねることが困難な行政分野の補完・代替機能の維持・あいりん地域並びに周辺の居住者及び生計困難者に対し、多様な医療・福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援するため、地域の社会医学的な実態を把握すると共に、必要かつ迅速な医療を行い、地域住民の保健と福祉の増進に寄与することを目的として、無料低額診療施設の経営や、医療・福祉に関する相談及び支援を行う。

経営課題 (対応方針)

1. あいりん地域における医療・福祉サービスの安定供給を図る。

- ・外来患者が減少する中での相談件数の維持や、患者からの日々多岐にわたる相談内容に応じられる専門性を持った職員の確保・維持という課題はあるが、経費削減によってサービス低下を招くことなく、あいりん地域の医療・福祉の充実に貢献する。

2. 医業による収益の増加を図り、自立した病院経営をめざす。

- ・開院後約半世紀が経過し、施設が老朽化している中で患者数を確保することや、入院待ち患者が少ない中で、平均在院日数を短縮すると空床となる恐れがある等の課題はあるが、合理性と効率性の病院経営に努め、一層の経営健全化を図る。

戦略目標

①医療・福祉に関する相談

- ・相談件数
15,673件(H30実績)→
15,700件(R1目標)
【中計最終:15,000件
(R2)】

②医業収益の増加

- ・医業収益
1,175,870千円(H30実績)
→1,175,947千円(R1目標)
【中計最終:1,179,941千円
(R2)】

③病床の効率的運用

- ・病床利用率
76.5%(H30実績)→84.5%(R1
目標)
【中計最終:85.5%(H32)】
- ・平均在院日数
20.9日(H30実績)→20.6日
(R1目標)
【中計最終:20.5日(R2)】

【参考:中期経営計画の最終年度の目標値】

様 式 2

中期経営計画に基づく基本方針(目標設定の考え方)

団 体 名	(社福)大阪社会医療センター	所 管 局 名	福祉局
-------	----------------	---------	-----

○中期経営計画の概要

中期ビジョン (団体が目指す 中期の到達点)	「合理性と効率性」の病院経営に努め、大阪市の厳しい財政状況や社会的状況を踏まえ、地域ニーズの把握に努めながら、経営の健全化を図るために経営目標を立て、収益増加と支出の削減に努め、補助金の削減に取り組んでいく。		
中期経営計画名称 (計画期間)	経営計画(平成28年度～令和2年度)	公表先URL	http://osmc.or.jp/publics/index/32/

○最終年度の到達目標(中期経営計画)

中期経営計画上の 戦略目標	取組事項 (成果測定指標)	単 位	最終年度の 到達目標	目標達成のための活動事項
医療・福祉に関する 相談	相談件数	件	15,000	医療ソーシャルワーカー及び看護師が関係機関等とも連携した対応を実施。
医業収益の増加	医業収益 ※「医業収益」については、団体の医業にかかる収益から補助金事業収益を除く額	千円	1,179,941	病床利用率向上と、平均在院日数短縮の両立を図るなど、入院収益の向上を中心とする取組み。
病床の効率的運用	病床利用率	%	85.5	延入院患者数を増加させることによる病床利用率の向上。
	平均在院日数	日	20.5	患者一人ひとりに寄り添った相談支援を強化することなどによる平均在院日数の短縮。
外科系診療科の入院収益増	手術件数	件	225	手術の必要な症状の患者の理解を得ながら、手術件数の増加を図る。
入院患者受入態勢の整備	看護師の離職率	%	10	優秀な看護師の確保・育成・定着による離職率低下。

○令和元年度経営目標

1. CS(市民満足)、事業効果(設立目的と事業内容の適合性)

戦略目標	成果測定指標	単位	R1 目標	中計 R1 目標	R1目標値設定の考え方 (数値の根拠)
医療・福祉に関する 相談	相談件数	件	<u>15,700</u>	15,000	平成30年度実績を超える件数に設定。 (あいりん地域の人口が減少し、利用対象者が減少することになるが、人事異動を含めた相談体制の強化により利用者の確保に努める) H25:15,577件、H26:13,959件、H27:16,115件、H28:16,087件、H29:15,586、 <u>H30:15,673件</u>

2. 財務(健全性、採算性)、効率性(コスト抑制と経営資源の有効活用、自立性の向上)

戦略目標	成果測定指標	単位	R1 目標	中計 R1 目標	R1目標値設定の考え方 (数値の根拠)
医業収益の増加	医業収益	千円	<u>1,175,947</u>	<u>1,175,947</u>	中期経営計画に定める年度目標に基づく 510,276千円(入院診療収益) +660,618千円(外来診療収益) +2,053千円(保健予防活動収益) +その他の医業収益 3,000千円 ※R1年度については、H30年度の増収要素(高額薬剤処方)が見込めないため、H30年度実績と同水準になっている。(中期経営計画での目標値)

3. その他(市から自立化するための取組み、法人の経営上重要と認められるもの)

戦略目標	成果測定指標	単位	R1 目標	中計 R1 目標	R1目標値設定の考え方 (数値の根拠)
病床の効率的運用	病床利用率	%	<u>84.5</u>	<u>84.5</u>	中期経営計画に定める年度目標に基づく
	平均在院日数	日	<u>20.6</u>	<u>20.6</u>	中期経営計画に定める年度目標に基づく

団体名	(社福)大阪社会医療センター	所管局名	福祉局
-----	----------------	------	-----

○中期経営計画の概要

団体経営者の考え (R1の課題と重点目標)	あいりん地域の人口が減少しているなか、外来患者数の減少が生じたが、経営努力により入院患者の増による入院収益増もあり、相談件数及び医業収益の目標は達成できたが、平成30年度の他指標は目標達成に至らない見込み。 令和元年度以降も、地域団体との連携を一層強化し、あいりん地域における医療・福祉サービスを安定して供給し、経費削減によって患者サービスを低下させることなく、地域の医療・福祉の充実に貢献する。 さらに、「合理性と効率性」の病院経営に努め、社会的状況や大阪市の厳しい財政状況を踏まえて、地域ニーズの把握に努めながら、経営の健全化を図るために、自立した効率的経営をめざし、事業補助金の削減に取り組みつつ、来年12月の新病院開院につなげていく。
--------------------------	---

○令和元年度経営目標

1. CS(市民満足)、事業効果(設立目的と事業内容の適合性)

戦略目標	成果測定指標	単位	H29実績	H30実績	R1目標	ウェイト	前年度実績比較	戦略目標達成のための活動事項
医療・福祉に関する相談	相談件数	件	15,586	15,673	15,700	30	高い	<ul style="list-style-type: none"> ・区保健福祉センター、あいりん地域で活動する支援団体等が参加するモデルケース会議に参画し、地域連携を活用した相談を行う。 ・地域団体や医療機関等との連携の強化を図るとともに、事例研究等の情報収集に努める。 ・患者の求めている福祉制度等の助言について、医師や看護師等とも連携をはかり患者要望をより広く集め、適切に福祉サービスへつなげるよう努める。

2. 財務(健全性、採算性)、効率性(コスト抑制と経営資源の有効活用、自立性の向上)

戦略目標	成果測定指標	単位	H29実績	H30実績	R1目標	ウェイト	前年度実績比較	戦略目標達成のための活動事項
医業収益の増加	医業収益	千円	1,230,592	1,175,870	1,175,947	40	同じ	<ul style="list-style-type: none"> ・あいりん地域で活動する地域団体等との連携強化を図り、平成28年度開始の肺がん検診、胃がん検診を着実に診療につなげるほか、月1回ずつ2か所で開催している「ふれあい喫茶」での健康相談を活用して当院のPRを行い患者増につなげる。

3. その他(市から自立化するための取組み、法人の経営上重要と認められるもの)

戦略目標	成果測定指標	単位	H29実績	H30実績	R1目標	ウェイト	前年度実績比較	戦略目標達成のための活動事項
病床の効率的運用	病床利用率	%	73.5	76.5	84.5	20	高い	<ul style="list-style-type: none"> ・患者の病状をよりの確に把握し、丁寧に説明することで患者の治療への理解を求め、必要とされる医療の提供に努めることにより、入院患者の増加を図り、もって病床利用の頻度を高める。
	平均在院日数	日	19.7	20.9	20.6	10	高い	<ul style="list-style-type: none"> ・地域団体や医療機関等との連携強化により、入院後の早い段階から面談を行い、退院後の生活基盤準備のフォローを強化することで平均在院日数の短縮に努める。

補足説明資料1

前年度実績より高い目標を設定できない理由について

団 体 名	(社福)大阪社会医療センター	所 管 局 名	福祉局
-------	----------------	---------	-----

経営目標①

視点	戦略目標	成果測定指標	単位	H29 実績	H30 実績	R1 目標	ウェイト	前年度 実績比較
2. 財務、効率性	医業収益の増加	医業収益	千円	1,230,592	1,175,870	1,175,947	40	同じ

前年度実績より高い目標を設定できない理由	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度は、外来患者数の減はあったものの、入院及び外来患者に係るC型肝炎の高額薬剤の影響等により、医業収益の目標は達成しました。 ・平成30年度の医業収益1,175,870千円のうち、一時的な要素(C型肝炎の高額薬剤)による収益が106,348千円を占めています。 ただ、C型肝炎の対象患者は治療の効果により減少する傾向にあります。先行して投薬を実施している病院における実績では、C型肝炎の高額薬剤の投与は、大幅に減少しており、既に投与のピークは過ぎたとされています。そのため、当院においても令和元年度以降は投与量が大幅に減少することが見込まれます。 ・こうしたことから、令和元年度については、C型肝炎の高額薬剤に係る収益を見込まない、中期経営計画における医業収益を目標値に設定しています。 ・なお、令和元年度についても、引き続き、可能な限りの経営努力により医業収益の増に努めていきます。
----------------------	---

団 体 が 考 え る 目 標 困 難 度	高い
-----------------------------	----

「あいりん地域まちづくり会議」

ニュースレター6

第8回 あいりん地域まちづくり会議（平成30年7月5日開催）のまとめ



新病院立面図イメージ

5階	療養病床	30床
4階	一般病床	50床
3階	一般病床	
2階	手術・管理	
1階	外来	

医療施設計画地



新病院イメージ図 →

各施設別検討会議の進捗状況

市営住宅検討会議

- ・第1住宅・・・平成31年2月の完成に向けて、現在は11階部分の躯体工事を行っている。
- ・第2住宅・・・萩小跡地の北東側での配置計画が確定し、来年春頃の着工に向けて、実施設計を行っている。

医療施設検討会議

- ・無料低額診療は維持する。
- ・移転先(配置場所)は萩小跡地の南東側(約2,000㎡)。
- ・(福)大阪社会医療センターが主体となり80床(外来機能と一般50床、療養30床)の病院を整備する。
- ・平成30年度実施設計、平成31年度～32年度建設工事予定。
- ・大阪社会医療センターでの診療状況や地域での取組み状況、機能のあり方について、地域などへ丁寧な説明を行う。

駅前活性化検討会議

- ・新今宮駅周辺の状況について、浪速区側も含めた状況把握が必要。
- ・地域へわざわざ来る人を増やす空間、降りたくなる空間、多目的に使用できるオープンスペースにした使い方など、場所・規模に限らず空いたスペースの利用のあり方、あるべき姿を検討。

労働施設検討会議

- ・労働施設の耐震化については、利用者の安全・安心確保を最優先に、いったん外部に仮移転し、現地で建て替えることを確認した。
- ・仮移転先については、南海電鉄高架下とする多くの意見があったことを労働施設検討会議として第5回あいりん地域まちづくり会議(平成28年7月26日)に報告し、大多数の委員の了解を得て、南海電鉄高架下に決定した。
- ・現地での建て替えを前提に、新施設の機能に合わせた規模の議論に向け、現在、検討を行っている。
- ・仮移転施設は今年度中に整備工事を行い、移転する予定。
(大阪府：平成30年7月から工事実施、大阪労働局：平成30年9月から工事実施予定)

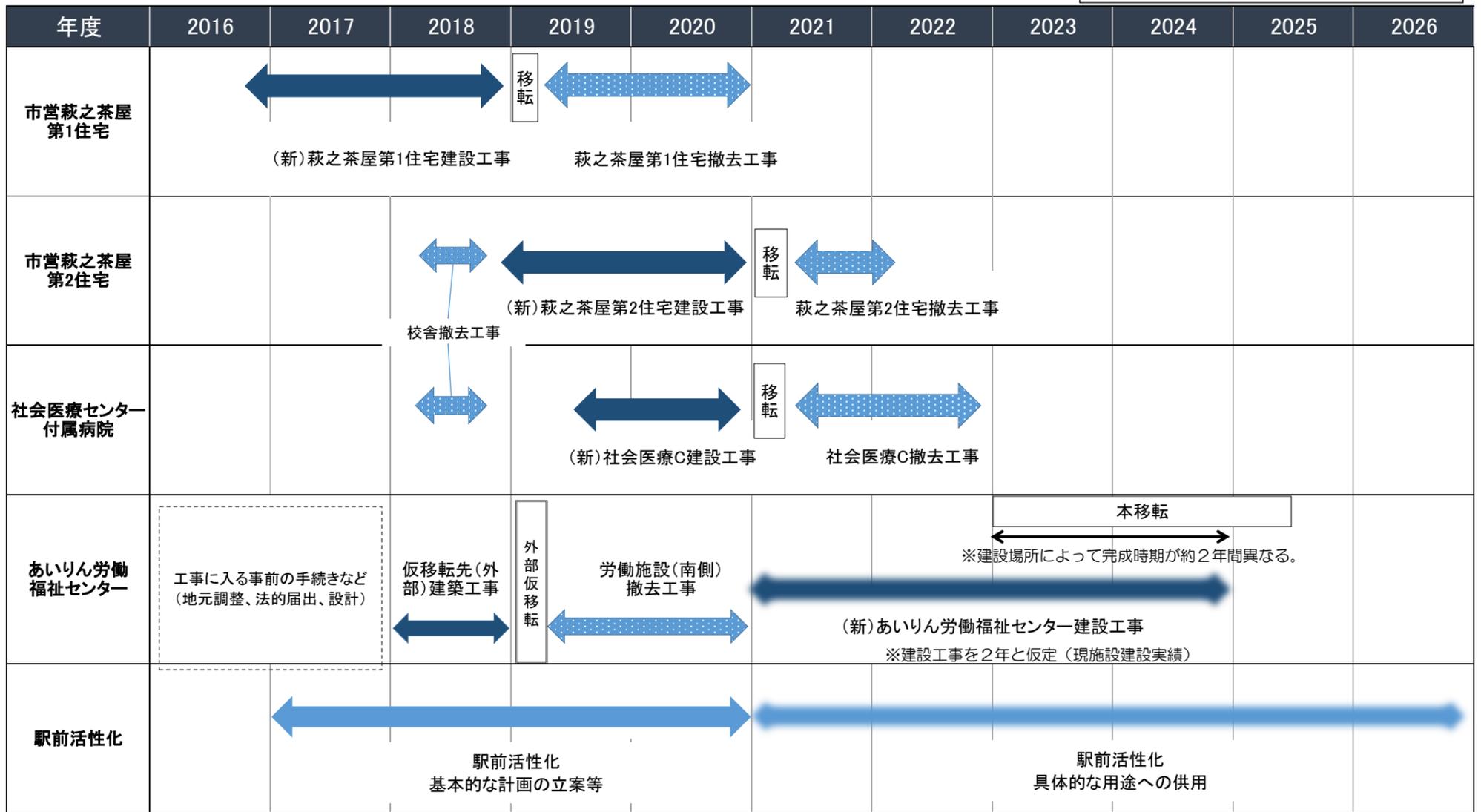
公園検討会議

- ・あいりん地域内の4公園(萩之茶屋北公園、萩之茶屋中公園、萩之茶屋南公園、花園公園)などに関する意見交換を行い、出された意見を基に、あいりん地域のまちづくりにおける公園の使い方やあり方について議論を深めていく。

あいりん総合センター関連工事のスケジュールイメージ（案）

平成28年12月13日開催
第6回あいりん地域まちづくり会議資料

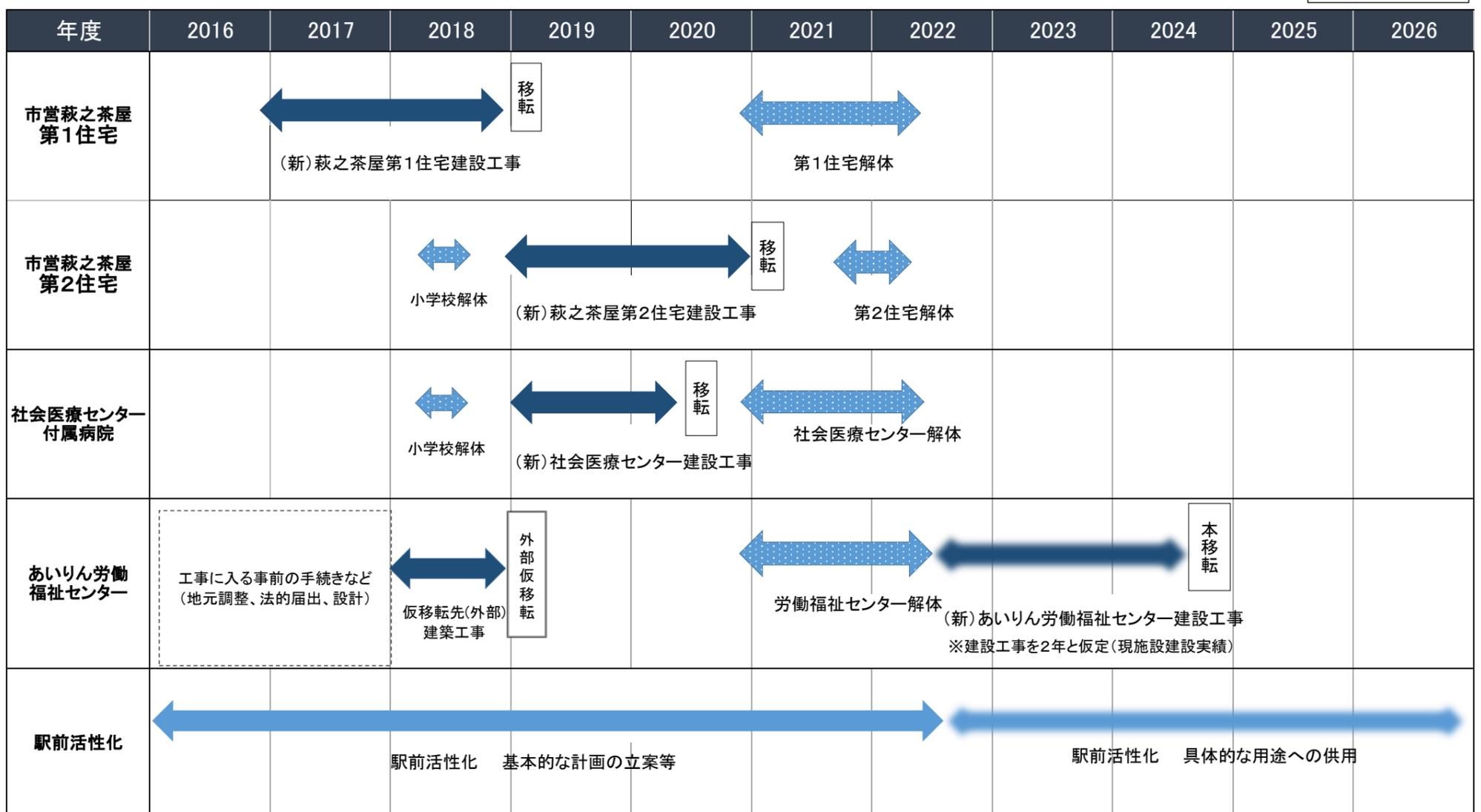
■工事のスケジュールイメージ ※想定スケジュールであり、決定事項では在りません。さまざまな要因によって変動します。



平成30年7月時点

■工事のスケジュールイメージ ※想定スケジュールであり、決定事項では在りません。さまざまな要因によって変動します。

検討案



平成30年7月発行
にしなりやくしょ じぎょうちょうせいたんとう
西成区役所事業調整担当
(06) 6659-9792

2020年（平成32年）12月開院予定！

社会医療センターは
生まれ変わります



社会福祉法人

大阪社会医療センター附属病院

地域のみなさまが安心して生活できるよう医療を提供します

- ・ 萩之茶屋小学校跡地（現病院より100m南）へ移転します
- ・ 構造規模：鉄骨造5階建て、延床面積5,011㎡
- ・ 病床数：80床（一般急性期病床50床、医療療養病床30床）
- ・ 診療科：内科、外科、整形外科、精神科、皮膚科、泌尿器科
- ・ 無料低額診療事業（第2種社会福祉事業）の継続実施
- ・ 病院併設型訪問看護ステーションを開設予定

〈アクセスマップ〉



〈東側から見た新病院の外観〉



〈1階外来イメージ図〉



〈病棟イメージ図〉



現在所在地

〒557-0004

大阪市西成区萩之茶屋1丁目3番44号

☎06-6649-0321 fax06-6645-5410



新所在地（予定）

〒557-0004

大阪市西成区萩之茶屋1丁目11番15号

☎06-6649-0321 fax06-6645-5410